

2018年度1次隊
派遣国 エチオピア
後藤舞子(ごとう まいこ)
職種 理科教育



★どうして協力隊に参加してみようと思ったのですか？

高校生の頃から海外ボランティアに興味がありました。大学を卒業して教師になったので、仕事を辞めずに参加できるJICAの協力隊を選びました。自分の視野を広げるため、日本の子どもたちにも世界のことを伝えられるようになりたいと思って参加を決めました。

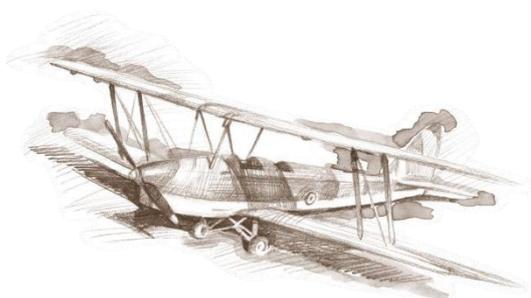
★任地ではどのような活動をされていたのですか？

配属先は人口3万人ほどの街の小学校でした。主に、理科の授業の支援をしていました。授業では先生が教科書を読んで説明しているだけだったので、実験ができるよう、理科室の整備をし教材を作成していました。また、近隣の学校の先生たちを集めて研修会を開いていました。他にも幼稚園に行ったり、放課後の算数教室の手伝いをしたりしていました。



★やりがいや喜びを感じたのはどんな時ですか？

提案した実験を先生が実際にやってくれた時です。慣れない実験を一生懸命取り組んでくれました。子どもたちの反応も良くて準備してよかったなと思いました。派遣中に、日本の学校と手紙の交換ができました。自分がきっかけになって国際交流の機会が提供できて嬉しかったです。



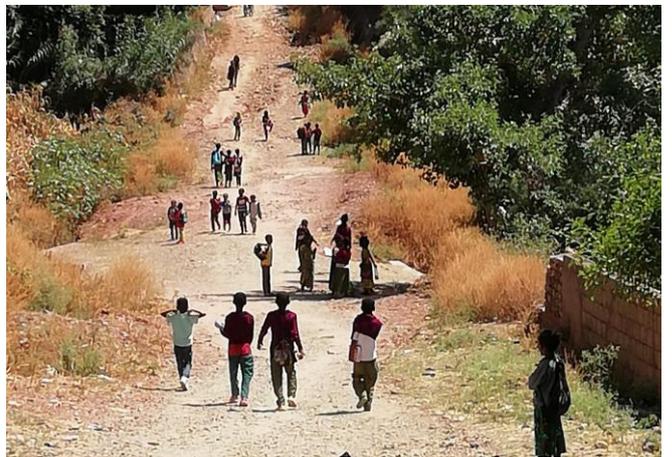
★任地ではどのようなものを食べていましたか？

エチオピアの主食はインジェラという食べ物です。インジェラはテフという穀物と水を混ぜて発酵させて焼いたクレープみたいなものです。これに、お肉や野菜を炒めた具や、豆のシチューや辛いソースをつけて食べていました。

住んでいた地域はテフの生産地で、街の周りには緑のテフ畑が広がっていました。収穫時には金色の草原に変わりとても美しかったです。



通学路。のんびり歩いて通勤していました。



青空に映える大きな岩山。いつ、どこから見ても飽きないすてきな山でした。



★協力隊に参加して、自分の中でどのような変化がありましたか？

協力隊に参加して、すごく遠いと感じていた世界の国々が出会った人たちを通して身近に感じられるようになりました。世界にはいろんな人がいて、いろんな生き方がありました。国籍、言葉、文化の違い…相手のことを知り、理解して受け入れられるようになったと思います。違いがあることをポジティブに捉えられるようになりました。これから、時間がたてば経つほど、「協力隊の経験があったから…」と思える気づきや考えが増えそうな気がします。

